

土木業界に旋風、社内フランチャイズ化。 魅力あふれる企業風土が社員を引き付ける。

有限会社本郷工業



<http://www.hongou-i.jp/>

現場で働く社員の笑顔を発信 粒ぞろいの現場代理人を育てる

深刻化を増す人手不足。優れた人材の発掘や育成に頭を悩ませる企業は少なくない。

そこで紹介したいのが、土木建設会社の本郷工業だ。不動産販売業者や工務店などが手掛ける地域の「まちづくり」をサポートし、周辺道路や水道管などのライフライン整備、地盤補強、住宅の基礎工事を担う。中でも建造物解体工事で生じるコンクリート塊を現地で破砕し、盛り土材料などに再利用する「資源循環型土木」に強みを持つ。廃材の運搬を省くことで費用を低減でき、環境に優しく、工事現場周辺の住民にも評判が良い。そんな本郷工業は「人づくり」を経営の軸に据えている。

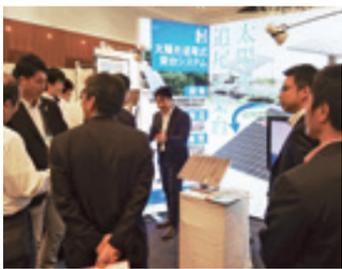
土木建設工事の請負契約では、工事



宅地造成工事事例、周辺道路の清掃まで現場代理人が気を配る



解体現場で行う「資源循環型土木」



「しがぎん」エコビジネスマッチングフェア2016」に出展

同時に、給与制度を「固定給プラス出来高」から、毎月ごとに評価を見直す成果報酬に近い「賃金評価システム」に変更した。「頑張った分がすぐに報われ、社員みんなが夢を持って働ける就労環境を目指した。また、現場代理人を一人の経営者と考え、意思決定を新たに設けた現場代理人会に諮るなど、社員が主役の会社づくりを進めてきた」。

10年かかる人材育成を短縮 三つのステージが意欲を引き出す

企業の成長には安定した人材が欠かせないが、手塩にかけた現場代理人は一人前になると独立を希望し退職する。このジレンマに悩んだ本郷社長は発想を転換。独自の社内制度を考案し、「二人前に育てるのに10年」とされる育成期間を短縮し、社員の定着率を高めることにも成功した。三つのステージを設定した現場代理人制度がそれで、社内フランチャイズ化ともいえる仕組みだ。初級のワンスター（星が一つ）代理人はスキルを高めながら、現場のマネジメント経験を積

Profile

有限会社本郷工業

- 本社/大津市大萱2-3-22
- 設立/1996年
- 資本金/2,000万円
- 従業員数/40名(パート含む)
- 事業内容/宅地造成工事・解体工事・外構工事・基礎工事・舗装工事・農地整備工事・環境保全循環型資材運用事業・環境機械レンタル事業・太陽光発電事業



代表取締役
 本郷 智也氏

Voice

縁があつて当社で働く社員を、家族のように大切にするのは経営者の務めです。この思いを結びあい、一緒に夢をかなえたい。笑顔と共に、地域社会に役立つ土木建設のプロフェッショナルを目指します。

物件の事業主に代わって法的権限の行使を許されているのが「現場代理人」だ。現場監督とも呼ばれ、施工完了まで現場での全ての指示を行うため一つの現場に1人が常駐しなくてはならない。

「土木建設業界で売り上げを伸ばすには、現場代理人を増やすことが欠かせない。大きな工事を受注しようとしても、現場代理人の不足で断念する場合もある。粒ぞろいの代理人をいかに揃えるかが各社の課題だ」。そう話す本郷智也社長は、10年をかけて「現場代理人の個性と意識を動かす会社」を築き上げてきた。例えば、同社が発行する会社案内のパンフレットは、それぞれの現場代理人ごとに編集・作成され、「笑顔と機動力が自慢です」など、その現場代理人の人物や実績を施主や地域に発信。一人ひとりの個人の魅力をアピールすることに力を尽くしている。

新規受注や積算提案まで 現場代理人の裁量に任せる

土木建設業界に限らず、プロジェクトの全体を意識せずにその日その場だけの感覚で働き、会社への帰属意識が希薄な現場社員は少なくない。そんな環境を変え、「本郷工業で働く喜びや、仕事の楽しさを感じてもらいたい」と考えた本郷社長は、8年前に「現場代理人一貫体制」を導入した。現場監督が行う進捗管理などの業務の枠を超え、新規工事の受注や積算提案といったプロジェクトまで任せる革新的な取り組みだ。不動産事業者やハウスメーカーなどの発注者と交流する機会が増えた現場代理人は、「誰のために何を造るか」を肌で感じられるようになり、仕事へのモチベーションが高まったうえ、営業や経営にも関心を持つようになったという。

む。弟子を育てる資格が得られるツースター、エリアマネージャーとして代理人を束ねるスリースター。それぞれの資格上位を目指して手を挙げた社員を投票で選ぶシステムとなっている。業界経験がないにもかかわらず、入社後1年ほどでワンスター現場代理人になった社員も現れるなど刺激に満ちている。

挫折経験を持つ若者には「優れた代理人に育つて、幸福をつかんで欲しい」と温かい手を差し伸べる本郷社長。そのまなざしには社員に対する優しさが込められている。本郷社長は17歳から建設現場で働き続けてきた。もともと豊かになりたいと、22歳で本郷工業を設立。旺盛な独立心

太陽の動きを追尾する架台で 太陽光発電の効率を高める

新しい事業として力を入れているのが、昨年からは手掛けている追尾式太陽光発電事業だ。その日その時間の太陽の動きを自動的に捉える架台システムを販売する。「開発メーカーとの縁から架台システムの開発にも進出した。新規需要や既存設備の更新対象として、固定式のものに比べて1.5倍以上の発電効率を持つ1軸式(東西方向のみに可動)が注目

を集めている。さらに効率が高い2軸式(南北方向にも可動)も開発を終えて、実証試験に入った」。本郷社長は



架台に技術を生かした「追尾式太陽光パネル」

「今後も、将来を見据えて人づくりに励んでいきたい。今年度は新卒学生の採用にも挑戦する。若くて意欲のある人に、この会社で働きたいと思える魅力を提供していきたい」。地域の清掃活動にも参加するなど社会貢献にも意欲的に取り組む本郷工業は、このほど滋賀銀行のCSR私募債を発行。地元の中学校にテントなどの備品を寄贈し、地域からも喜ばれている。